

Dr.  
チェック!

知っておきたい病気のはなし



今月の先生



きむらクリニック

木村 賢太郎 (きむら・けんたろう) 院長

大阪医科大学卒業後、岡山大学医学部腫瘍・胸部外科入局。国立病院機構岡山医療センター、さぬき市民病院、南松山病院、を経て岡山大学大学院医歯薬学総合研究科呼吸器・乳腺内分泌外科、和泉市立病院外科・外科副部長に就任、平成25年9月、呼吸器・消化器クリニックを開院。

きむらクリニック

宝塚市中筋4の8の27中山寺駅前ビル  
☎0797・88・3303

第3回

# 大腸がん

大腸がんは緩やかに進行します。  
40歳過ぎれば毎年検診。女性も積極的に。

大腸がんは早期発見し、治療すると完治しやすいといわれています。もし、便潜血検査が陽性であれば精密検査を受けてください。しかし、精密検査の大腸ファイバー（内視鏡）はハードルが高いと感じる人もいます。そうした中、大腸CT（三次元画像診断）検査が注目されています。兵庫県宝塚市のきむらクリニックの木村賢太郎院長に大腸がん検査の最前線を話してもらいました。

日本の大腸がん（結腸がん、直腸がん）は、部位別がん死亡率で女性は第1位、男性は第3位です。また、毎年、10万人以上の人が、がんになり、その中で4万人を超える人が死亡しているといわれています。しかし、大腸がんは早期発見し、治療すると完治しやすいがんです。

大腸がんはポリープの中で腫瘍（しゅよう）に分類される良性腫瘍の一部に複数の遺伝子変異が重なり癌化するものと、ポリープから発生しないがん、イボにならずに平坦なまま、がん化するデノボ癌とがあると考えられています。進行は他のがんよりゆっくりで、自覚症状はあまりありません。また、40歳ころから罹患率が急激に上昇します。40歳以上の人は定期的な検診を必ず受けてください。



検査での苦痛や前処置の負担が少ない大腸CT。関西地区では同検査ができる施設は少ないが、きむらクリニックは平成25年に設置。

日本での大腸がん検査は1日1回の便を2回採取する「便潜血2日法」が主流で、有効性が確立しています。ただ、便潜血検査が陽性でも大腸内視鏡を使った精密検査を受けない人が多いのも現実です。

その理由は2リットルという大量の下剤を事前に飲まなければならない▽2メートルもある大腸の端から端まで内視鏡を送り込むため痛みを感じるなどがある▽恥ずかしいなどから、ハードルが高く、躊躇する人もいます。そのほかでは、陽性でも痔の出血と思う人もいるのも事実です。

最近、大腸CTが注目され、精密検査する人が増えています。この検査では、事前の下剤

は必要ですが少量です。直径7〜10ミリのチューブを10センチほど肛門から入れ、炭酸ガスで腸を膨らませて画像を撮影します。検査時間は約10分程度で使用する炭酸ガスは検査終了数分後には体内に吸収され、おなかの膨張（ぼうちよう）感はなくなりません。また、痛みもなく、恥ずかしさも軽減されます。

6ミリ以上の治療の対象となる病変の診断能力は、内視鏡と同等程度の結果が得られます。平成24年から便潜血の陽性など他の検査で大腸悪性腫瘍が疑われる場合については保険診療になりました。

この検査法は抵抗感が少なく精密検査が受けやすいと思いますが、関西地区ではこの検査法を行っているところはまだまだ少ないと思います。当院では25年から大腸CTを導入し、高い評価をいただいております。「早期発見、早期治療で元のよりよい生活に戻る」を目指しています。

また、大腸がんは一種の生活習慣病です。肉類などの動物性タンパク質や脂肪そして、炭水化物、砂糖などを多く摂られる食生活が原因とも考えられています。繊維質の多い野菜や穀類などを意識的に食べられることをお勧めします。